



中央義士会が新発田訪問、 武庸会総会に花を添える

中央義士会の会員12名が、令和7年6月13日(金)の武庸会へ向け、つねかい(新発田生まれの堀部安兵衛を顕彰する会)総会後の懇親会に出席した。参加したのは中央義士会の東京本部ほか京都支部、赤穂支部、熊本山鹿支部、北海道など全国に渡り。

13日(金)は長徳寺の安兵衛の父中山弥次右衛門の墓にお詣りし、義士堂を見学した。懇親会前には中央義士会の柿崎輝彦理事長による安兵衛の高田馬場の助太刀に関する講演が行われた。参加者から「助太刀のとき、敵に味方した中津川祐見とは何者か」



新発田城大手門前の安兵衛銅像前で記念写真

「大野九郎兵衛の仇討ち計画は事実か等の質問が飛んだ。」

14日(土)は武庸会の案内で安兵衛ゆかりの新発田城を訪問後、市歴史図書館で安兵衛の直筆書状を見学、鶴巻康志学芸員から「いねいな説明を受け、達筆で、しかも几帳面な性格が見てとれる」「長いの論理的な破綻がない」などの感想を漏らしていた。市歴史図書館にはこのほか安兵衛の家系に関する「世臣譜」など、多数の史料が保存されている。

一行は安兵衛の母の墓がある寺町の法華寺に立ち寄り、清水園の「安兵衛伝承館」を見学後、大倉



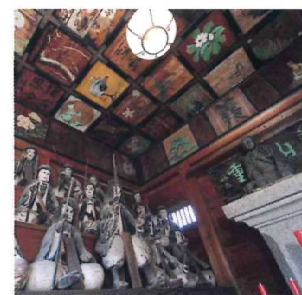
講演する柿崎輝彦氏

喜八郎の蔵春閣で志まの弁当を築んだ。喜八郎は義士会出版部が大正9年に出版した詩画集『義士大観』に狂歌(其の名さへ高田馬場に里以もの保里出されたる堀部安兵衛)を寄せている。最後に中央義士会の若手女性の東結菜氏からお礼の言葉とともに東京土産が武庸会に手渡された。

中央義士会理事長の話によると

長徳寺にある義士堂、 9月1日から一般公開

武庸会が昭和4(1929)年に義士堂を建立、浪曲師の桃中軒雲右衛門が寄贈した四十七義士像を安置、さらに彫刻家武石弘三郎寄贈の安兵衛像、天井には義士堂建設に賛同した旧新発田藩主溝口直亮、前総理大臣若槻禮次郎、原内閣書記官で菅谷出身の高橋光威、雲右衛門支援者の頭山満、早稲田大学関係者の市島春城、會津八一らの書画が収められている。早稲田大学関係者が多いのは、二代会長の上野喜永次が早稲田大学の前身、東京専門学校2期生であり、その世話をしたのが初代会長の富田精案だったからと伝えられている。



義士堂の木像と天井画

見学は1組4〜20人程度、見学希望日の1か月前〜5日前までに電話か公式LINEで予約する。見学可能日は平日9時〜17時で15分〜30分ほどの解説がつく。1人500円の料金は天井画等の維持管理に使う。問い合わせは0254(22)60226、長徳寺まで。



私立歴史図書館で史料閲覧

安兵衛は新発田生まれ

会津坂下町では…



弥次右衛門の墓参り(長徳寺)

平成24年10月発行で令和6年3月第2次改定、会津坂下町教育委員会発行の「会津坂下町郷土学習副読本」に堀部安兵衛の項があり、その中に「安兵衛の父の中山安太郎(両親のお墓が、今も貴徳寺にあります)」とあった▼父の名は弥次右衛門であり、父の墓は長徳寺、母は法華寺に祀られている。武庸会では令和6年12月14日付の文書で訂正を要請▼結果、令和7年5月21日付で「修正させていただきますました」の回答を得た。「中山安太郎」は「中山」に、「安兵衛の両親のお墓が、今も貴徳寺にあります」は「安兵衛の両親と縁のある貴徳寺では、毎年12月14日に法要を行っています」になった▼武庸会では「一部訂正したことにお礼を言うべき」「まだ誤解を招く」「父が貴徳寺の一室を借りて住むことになり」とあるが事実と異なる。教育委員会が子どもたちに「嘘」を教えるべきでないなど、意見が多出した▼会津坂下町教育委員会は「修正前の記載につきましましては、井関敬嗣君(会津坂下町の伝説と史話)をもとに記載」としたが、同書の内容は明治時代に創作された浪曲「安兵衛生い立ち」を改編したもので、事実ではない。対応を検討中だ。



堀部安兵衛は大英雄。 義に生きた新発田人

堀部安兵衛武庫は寛文10（1670）年、新発田藩土中山弥次右衛門の嫡子として外ヶ輪（今のJA北越後新発田店）で生まれた。母は藩祖秀勝の娘系姫と藩口四郎兵衛との娘である。したがって安兵衛は藩祖の曾孫だ。

父は天和3（1683）年に辰巳橋失火の責任をとって浪人しその後死亡。安兵衛は白根の牛崎村長井家に嫁いだ姉の世話になり、19歳で江戸に出る。

江戸では堀内源左衛門道場で直心影流を学び、道場一の達人となった。

高田馬場の助太刀で一挙に名を挙げた安兵衛

元禄（1694）年、堀内道場で知り合い叔父甥の契りを交わしていた菅野六郎左衛門の高田馬場の果し合いに助太刀し、3人を倒した。講談では18人倒したことになる。また、早稲田の酒屋小倉屋（現存）で二升酒をあおったとの伝説もある。

この活躍を聞いた赤穂藩留守居役堀部弥兵衛から婿にと懇願

された。最初は中山家再興を理由に断った。しかし、弥兵衛の「中山姓を称しても」の熱意にほだされて婿となり、赤穂藩浅野家に仕官した。なお安兵衛も弥兵衛も手田源氏佐々木氏の末裔である。

赤穂藩浅野家に仕官した安兵衛は元禄11（1698）年、尾張大納言光友室千代姫（家光の娘）近云に際し、藩主浅野内匠頭長矩の代理として申問使に選ばれ、大いに感激したという。

赤穂浪人の江戸急進派頭目として吉良邸討ち入りで義を貫く

元禄14（1701）年3月14日、勅使響応役の浅野内匠頭長矩は指導役だった吉良上野介義央に江戸城松之廊下で刃傷に及び、浅野内匠頭は即日切腹。浅野家は改易の命が下る。

これを喧嘩面成敗の仕来りに習わぬ裁定として、取り潰し後の赤穂藩浪人47名は元禄15（1702）年12月14日、本所松坂町の吉良邸に討ち入り、吉良を討った。翌2月4日、安兵衛は名誉の切腹、享年34だった。

武庸会（たけつねかい）は 堀部安兵衛の顕彰団体

四十七士の一人、新発田生まれの堀部安兵衛武庫を顕彰する武庸会（たけつねかい）は明治45（1912）年、新発田町の有志、富田精策・上野喜永次・高橋誠一郎・土田亦次郎らが相集って堀部安兵衛の顕彰碑を生家菩提寺の長徳寺に建立する計画を進めていたのが創設のきっかけだ。

人気絶頂の桃中軒雲右衛門の義士像寄贈が設立に拍車をその年の5月、義士銘々伝で人気絶頂の浪曲師・桃中軒雲右衛門が新発田を訪れ、石碑建立の話に感激し、義士の木像寄贈を申し出た。そして12月14日に武庸会の発足を決議し、翌大正2（1913）年2月4日に武庸会が発足した（なお、中央義士会の創設は大正5年）。



武庸会の行事は12月14日の義士祭、2月4日の命日法要がある。しかし、そのほかに平成元（1989）年から30年以上続いた唐仁塾による「討ち入り蕎麦振る舞い」、平成9（1997）年の「手植えの松二代目植樹」、平成24（2012）年から数回続いた生誕地まつり実施なども記しておく。

なお武庸は安兵衛の本名だ。

武庸会の役員

会長	高橋正明
副会長	石川富夫
副会長	長谷川敏
副会長	大滝俊雄
顧問	嶋谷次郎八

義士祭

令和7年12月14日（日）午後14時～18時
場所／長徳寺（大栄町2-7-22）14時から討入りそば振舞

12月14日は新発田生まれの剣豪、堀部安兵衛武庫が吉良邸に討入りし、見事本懐を遂げた日です。安兵衛を顕彰する武庸会では毎年、法要を営むとともに「少年少女剣士」によるパレードを実施しています。当日は、新発田ライオンズクラブによる「討入りそば」の振舞（無料）や「義士堂」の公開、御免町小安兵衛太鼓部による演奏で安兵衛を偲んでいます。

参 無料 問 武庸会事務局（観光協会内）TEL.0254-26-6789



※予定は当日変更になる場合がございます

午後14時／義士堂びらきなど
午後15時／日本剣道形・吟など
15時30分／法要
16時00分／安兵衛太鼓披露
16時15分／少年少女剣士パレード

武庸会に入会しませんか？

以下ご記入の上、
年会費 3,000円をお振込ください。

氏名 _____

〒 _____

住所 _____

電話番号 _____

堀部安兵衛の顕彰事業のほか、
安兵衛関連出版事業や
安兵衛 & 四十七士および
忠臣蔵ゆかりの地への旅など
楽しい企画を実施しています。

年会費振込先

新発田信用金庫 本店
普通口座 0446278
口座名 タケツネカイ

問い合わせ／
新発田市観光協会内

武庸会事務局
TEL.0254-26-6789 FAX.0254-26-5031